

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	教師の授業力向上を推進し、学力の向上を図る。
目標(評価規準)		○教師自身が、自らの授業力向上を実感する。○児童が、学力の向上を実感する。
重点に係る現状 設定理由		○子どもの学力向上を図るため、授業力を向上させる必要がある。 ○授業力向上にむけての意欲は十分にもっているため、校内研究を中心に、授業力向上を目指す。 ○子どもは、概ね授業に前向きに取り組んでいるが、基礎学力の定着に課題がある。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○ほぼすべての教員が、授業力向上を推進し、学力の向上を図っていると肯定的に捉えている。多くの教員が個に応じた学習指導や授業展開を心がけ、校内研修の実践や児童の特性を踏まえた指導の工夫・改善を行っている」と回答している。
各アンケート等の結果	○児童向けアンケート項目「わたしは、勉強がわかるようにがんばっています」において、肯定的回答が83%であった。児童の意欲を喚起している点として十分に評価できる。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、勉強していることがよくわかります」において、肯定的回答が77%と概ね良好な評価であった。今後、さらにわかる授業をめざして今後の改善方策に生かしたい。 ○保護者向けアンケート項目「学校は、子どもたちが意欲的に学習し、基本的な学力が身につくように努力している」において、肯定的回答が94%であった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○授業力向上のため学校全体で取り組んでいる「校内研究」について「研究テーマ」に沿って、複数学年でグループを構成して教材や指導法について授業検証を行い、個々の教員が自身の授業力を見つめ直し、技術を向上させる機会とした。またタブレット導入により、積極的にタブレットを活用した授業実践を行い授業力向上につなげた。 ○児童の学習面の実態については、概ね良好な評価ととらえる。しかし、学力が定着しない児童や理解が不十分な児童がいるのも事実である。今後は課題となる読解力の向上に取り組み「子どもの可能性を大切にする」指導を充実させたい。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、宿題以外にも家庭学習をしています」において、肯定的な回答は51%と低迷している。日常の中で学習習慣を定着させるため、自分で計画を立てて取り組む態度を育てるため、家庭と連携して取り組みたい。
学校関係者評価結果	○教師は個々の児童の特性に合わせたわかりやすい授業を行っている。 ○子どもたちは落ち着いた雰囲気ですべて学習している。 ○学力の向上に引き続き努めてほしい。
最終改善方策	○今後もわかりやすい授業・考える授業を目指して校内研究の充実をめぐる。 ○家庭学習の充実や自主的に学習する態度を育てるため、自学の取り組みを継続する。

本年度の重点	2	温もりのある雰囲気づくりに努める。
目標(評価規準)	○子どもが、「自分の学級は温もりがある」と実感する。○教師が、「自分の学級は温もりがある」と実感する。	
重点に係る現状 設定理由	○学校全体は落ち着いた状況にある。温かみのある学級風土を醸成することにより、一人ひとりの学習環境を整えたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○すべての職員が、温もりのある雰囲気づくりに努めていると肯定的に回答している。学校全体で、一人ひとりの児童に寄り添い、子どものよさを伸ばし、いきいきとした楽しい学校生活が送れるよう指導していることがうかがえる。
各アンケート等の結果	○児童向けアンケート項目「わたしは、学校へ行くのが楽しいです」において、肯定的回答が89%であり、概ね充実した学校生活を送っている様子がうかがえる。今後も楽しくいきいきと過ごせる学校づくりを進めていきたい。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、友達となかよくしています」において、肯定的回答が96%であった。 ○保護者向けアンケート項目「子どもたちは、自分らしくいきいきと学校生活を送っている」において、肯定的回答が98%であった。 ○保護者向けアンケート項目「子どもたちは、集団行動の中で助け合いやおもいやりの姿勢が育っている」において、肯定的回答が98%であり良好な評価ととらえる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○学年や学級の分け隔てなく、各教員が日常的な指導を積み重ねていく中で、児童一人ひとりとの良好な関係を築くことにつながったと考えている。 ○学校スローガン「自分らしく いきいきと」が教職員、児童ともに定着している。児童の自己肯定感を高めることを常に意識して指導していることにより、子どもたちに「助け合いや思いやりの姿勢」が育ってきていると実感している。 ○学校へ行くのが楽しくないと感じている児童3%にも目を向け、これまで以上に一人ひとりに寄り添い、きめ細かな指導をしていきたい。 ○児童支援において、学校全体で情報共有・連携指導を大切にし、学級担任が一人で課題を抱えこまないよう注意し、チーム力でより良い支援に努めることができた。
学校関係者評価結果	○子どもたちと一緒に遊ぶ教員がいることは、とても価値のあることである。 ○子どもが、学校へ行くのが楽しいと感じていることは評価できる。一方で、わずかながら否定的に答えている児童への支援をしっかりと行って欲しい。 ○学年や学級間の障壁が少なく、教職員が分け隔てなく見守る雰囲気がある。 ○岬陽小の児童は、あいさつが良くできており、とてもよい雰囲気で学校に通っている。今後も、よい雰囲気を維持できるように指導の充実を期待する。
最終改善方策	○子どもたちが「自分らしく いきいきと」生活できるように、学級運営を基盤とした指導の充実に努める。 ○子どもの自己肯定感を高めることを意識し、子どもに寄り添う指導を継続する。

本年度の重点	3	学校内外の安全の確保を目指し、地域・保護者との連携を図る。
目標（評価規準）		○保護者が安全確保のための連携の充実を実感する。
重点に係る現状 設定理由		○地域の団体等の尽力で、子どもの登下校における安全確保がなされている。 ○安全確保は、子どもの安全安心を守る必要条件なので、諸団体と連携を図りながら取り組んでいく。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○ほとんどの教職員が学校内外の安全を確保し、地域・保護者と連携を図っていると肯定的にとらえている。 ○教職員向けアンケート項目「学校は、家庭・地域との連携がなされている」では、75. 0%が肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	○保護者向けアンケート項目「学校は、保護者や地域との連携を大切にしている」において、肯定的回答が85%であった。 ○保護者向けアンケート項目「学校の情報や考え方が、学校だより・学級通信等により伝わってくる」において、肯定的回答が95%であった。 ○保護者向けアンケート項目「学校は、子どもの安全に配慮し、環境整備に努力している」において、肯定的回答が85%であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○学級通信、学校通信により、学校の考え方や情報を発信し、学校の考え方や情報が家庭や地域に伝わるよう引き続き取り組んでいく。 ○地域担当者との連携を図り、児童の安全確保を継続している。 ○防災訓練等を活用しながら学級指導を中心に「自分の身は自分で守る」という防災安全の基本について学び、防災・防犯教育に引き続き取り組んでいく。 ○施設・設備の安全確保のための点検等に対する全職員の意識は高く、可能な所から改善を進めているが、予算的な課題もあり、環境整備の改善が進まない面もある。今後も行政と連携しながら環境改善に取り組んでいく。
学校関係者評価結果	○地域の安心・安全を、学校とともに考えていくことはとても意義のあることである。 ○引き続き地域と連携し、子どもの安全確保に努めてほしい。
最終改善方策	○基本方針「自分の身は自分で守る」のもと、引き続き防犯教育や防災教育の充実に努める。 ○地域と連携して子どもの安全確保に努めるとともに、学校行事・PTA行事の更なる充実に努める。